

➤ 総説論文（欧文）

- 1) **MUKOHARA Kei**, SCHWARTSMD Mark D, STEVENS David L. Headache Chapter: In: Telephone Medicine American College of Physicians. American Society of Internal Medicine, 2002.
- 2) **MUKOHARA Kei**. Public expectation for annual physical examinations. Ann Intern Med. 137(9): 773-4, 2002.
- 3) **BAN Nobutaro**. Continuing care of chronic illness: evidence-based medicine and narrative-based medicine as competencies for patient-centered care. Asia Pac Fam Med 2: 74-76, 2003.
- 4) SHIMOMURA Yoshiharu, YAMAMOTO Yuko, BAJOTTO Gustavo, **SATO Juichi**, MURAKAMI Taro, SHIMOMURA Noriko, KOBAYASHI Hisamine, MAWATARI Kazunori. Nutraceutical effects of branched-chain amino acids on skeletal muscle. J Nutr 136(2): 529S-532S, 2006. (PMID: 16424141)
- 5) SHIMOMURA Yoshiharu, HONDA Takashi, SHIRAKI Makoto, MURAKAMI Taro, **SATO Juichi**, KOBAYASHI Hisamine, MAWATARI Kazunori, OBAYASHI Mariko, Harris A Robert. Branched-chain amino acid catabolism in exercise and liver disease. J Nutr 136 (1 Suppl): 250S-253S, 2006. (PMID: 16365092)
- 6) **BAN Nobutaro**. Japan Society for Medical Education (JSME): Its activities and current topics. JMAJ 54: 191-193, 2011.
- 7) **BAN Nobutaro**, FETTERS Michael D. Education for health professionals in Japan-time to change. Lancet 378: 1206-1207, 2011. (PMID: 21885111, doi: 10.1016/S0140-6736(11)61189-6.)
- 8) HAYASHI Satomi, **KATSUYAMA Kimiko**. Potential nursing interventions for treatment delay among patients with acute myocardial infarction in Japan. A literature review Journal of Yokohama Nursing 5(1): 9-14, 2012.
- 9) **BAN Nobutaro**. Transformative learning for health equity. BMJ 346: f1643, 2013. (PMID: 23482961, doi: 10.1136/bmj.f1643.)
- 10) **BAN Nobutaro**. Japan Society for Medical Education (JSME): Its history and activities for the last 45 years. MEFANET Journal: WWW: <http://mj.mefanet.cz/mj-02131206>.

➤ 総説論文（和文）

- 1) 藤崎郁, 伴信太郎. ナースのための全身のみかた: フィジカルアセスメント講座 13: 腹部の身体診察. 看護技術 45: 73-80, 1999.
- 2) 藤崎郁, 伴信太郎. ナースのための全身のみかた: フィジカルアセスメント講座 14: 腹部の身体診察. 看護技術 45: 299-306, 1999.

- 3) 藤崎郁, 伴信太郎. ナースのための全身のみかた: フィジカルアセスメント講座 15: 下肢の身体診察／全身（筋・骨格系）の身体診察. 看護技術 45: 411-420, 1999.
- 4) 今中孝信, 小泉俊三, 青木誠, 西田正之, 伴信太郎, 前沢政次, 松本孝夫. 大学における卒前総合診療部診療教育カリキュラム. 医学教育 30: 65-70, 1999.
- 5) 伴信太郎. これからの総合診療. 現代医学 46: 363-367, 1999.
- 6) 藤崎郁, 伴信太郎. ナースのための全身のみかた: フィジカルアセスメント講座 16: 全身（筋・骨格系）の身体診察. 看護技術 45: 523-530, 1999.
- 7) 藤崎郁, 伴信太郎. ナースのための全身のみかた: フィジカルアセスメント講座 17: 全身（筋・骨格系）の身体診察. 看護技術 45: 749-756, 1999.
- 8) 藤崎郁, 伴信太郎. ナースのための全身のみかた: フィジカルアセスメント講座 18: 全身（神経系）の身体診察. 看護技術 45: 861-868, 1999.
- 9) 藤崎郁, 伴信太郎. ナースのための全身のみかた: フィジカルアセスメント講座 19: 全身（神経系）の身体診察. 看護技術 45: 973-983, 1999.
- 10) 伴信太郎. 研修医に求められる臨床能力とは. JIM 10: 200-202, 2000.
- 11) 伴信太郎. 私の EBM 試行錯誤: 教育・診療・研究. 愛知医報 1610 号: 25-28, 2000.
- 12) 伴信太郎. プライマリ・ケアに求められる臨床能力とは（1）: プライマリ・ケアの特徴. 日本醫事新報 3962 号: 30-32, 2000.
- 13) 伴信太郎. 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 89: 845-848, 2001.
- 14) 伴信太郎. 基本的臨床能力としてのコミュニケーション技法（1）: コミュニケーションの基本, 4 つの要素と 4 つの交流, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 89: 1017-1022, 2001.
- 15) 伴信太郎. インフォームドコンセントの教育について. 治療 83: 170-173, 2001.
- 16) 伴信太郎. 一般医療におけるアルコール問題. こころの健康 25 :2-9, 2001.
- 17) 伴信太郎. 家庭医が知っていて役立つ教育/学習の基本. 家庭医療 8: 3-6, 2001.
- 18) 伴信太郎, 北村和也. プライマリ・ケアにおけるアルコール問題の頻度とそのスクリーニングのための CAGE 質問の本邦における操作特性. 日本アルコール関連問題学会雑誌 3: 91-97, 2001.
- 19) マイク・フェターズ, マーク・ザモルスキー, 佐野潔, トーマス・シュウエンク, 伴信太郎. クリニカル・クラークシップ: 米国における経験と提言. 医学教育 32: 77-81, 2001.
- 20) 山内一信, 伴信太郎. 診察の基本手技と診察具の使いかた. Medical Practice 18: 5-12, 2001.
- 21) 佐藤寿一, 佐藤祐造. 糖尿病に対する運動の効果についての疫学研究による評価. 臨床スポー

- ツ医学 18: 781-785, 2001.
- 22) 佐藤寿一. 運動と高脂血症, 高脂血症をどうする. JIM 11(10): 906-908, 2001.
- 23) 佐藤祐造, 徳留みずほ, 佐藤寿一. 生活習慣予防のための運動療法. 総合臨床 50: 3249-3255, 2001.
- 24) 向原圭. 病歴と身体診察で脳血管障害をどれだけ診断できるか. JIM 11(2): 108-111, 2001.
- 25) 向原圭. 根拠に基づいたコミュニケーション教育: The Macy Initiative on Health Communication (メイシー・プロジェクト): ニューヨーク大学・プライマリケア内科での試み. EBM ジャーナル 2(1) 110-113, 2001.
- 26) 向原圭, 伴信太郎. 医療面接 (1): イントロダクション, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 89(8): 1350-1354, 2001.
- 27) 向原圭, 伴信太郎. 医療面接 (2): 面接全体を通して必要とされるコミュニケーション能力, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 89(9): 1699-1703, 2001.
- 28) 向原圭, 伴信太郎. 医療面接(3): 面接の準備、開始段階におけるコミュニケーション能力, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 89(10): 1864-1868, 2001.
- 29) 向原圭, 伴信太郎. 医療面接 (4): 効率的な情報収集のために必要なコミュニケーション能力, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 89(11): 2071-2075, 2001.
- 30) 向原圭, 伴信太郎. 医療面接 (5): 面接全体を通して必要とされるコミュニケーション能力, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 89(9): 1699-1703, 2001.
- 31) 吉岡哲也, 伴信太郎. プライマリ・ケアにおけるアルコール問題. JIM 11(12): 1094-96, 2001.
- 32) 竹中裕昭, 伴信太郎. 基本的臨床能力としてのコミュニケーション技法 (2): 家族とのコミュニケーションの取り方, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 89: 1075-1078, 2001.
- 33) 竹中裕昭, 恒籐暁, 伴信太郎. ターミナルステージにおける予後推定と医師の対応. プライマリ・ケア 24: 197-202, 2001.
- 34) 伴信太郎. プライマリ・ケアに求められる臨床能力とは. 臨床鍼灸 17: 1-9, 2002.
- 35) 伴信太郎. 家庭医療のための臨床的推論 (Clinical Reasoning) . JIM 12: 163-166, 2002.
- 36) 伴信太郎. プライマリ・ケア教育. 現代医療 34: 156-160, 2002.
- 37) 伴信太郎. プライマリ・ケアにおけるアルコール問題の現状. 名古屋内科医会会誌 113: 24-31, 2002.
- 38) 佐藤寿一. POMR 概説: POMR の意義と構成, Problem の抽出と解決, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 90: 2239-2244, 2002.

- 39) 佐藤祐造, 佐藤寿一, 押田芳治, 大澤功. 運動療法: 大規模臨床試験が示す有用性のエビデンス, 2 型糖尿病の運動療法, 糖尿病治療学の進歩, 新時代の糖尿病学, 病因・診断・治療研究の進歩. 日本臨床 60: 250-255, 2002.
- 40) 鈴木富雄. 症例から学ぶクリニカル・ルール: 喘息を心配して救急外来を受診した 76 歳男性. JIM 12(1): 36-40, 2002.
- 41) 鈴木富雄, 伴信太郎. 基本的診察法 (1): 全身状態とバイタルサイン・上肢の診察, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 90(1): 192-195, 2002.
- 42) 鈴木富雄, 伴信太郎. 基本的診察法 (2): 頭頸部の診察, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 90(2): 293-299, 2002.
- 43) 鈴木富雄, 伴信太郎. 基本的診察法 (3): 胸部・乳房の診察, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 90(3): 475-482, 2002.
- 44) 鈴木富雄, 伴信太郎. 基本的診察法 (4): 腹部・直腸の診察, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 90(4): 617-623, 2002.
- 45) 鈴木富雄, 伴信太郎. 基本的診察法 (5): 神経・下肢の診察, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 90(5): 791-800, 2002.
- 46) 鈴木富雄, 伴信太郎. 症例提示 (プレゼンテーション) の仕方, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 90(6): 969-974, 2002.
- 47) 前野貴美, 大野每子, 佐藤寿一, 鈴木富雄, 高屋敷明由美, 竹村洋典, 名郷直樹, 前野哲博, 松村真司, 吉村学. 家庭医、プライマリケア医が行う臨床研究の障害および解決策: 文献的考察. 家庭医療 10: 4-8, 2003.
- 48) 佐藤寿一, 胡曉晨, 押田芳治, 佐藤祐造. インスリン抵抗性と漢方, 糖尿病合併症と漢方. 日本東洋医学雑誌 54(3): 508-514, 2003.
- 49) 鈴木富雄. 新人ナースの為の抗菌薬ベーシック. INFECTION CONTROL 12(4): 392-398, 2003.
- 50) 堀江典克, 佐藤寿一, 胡曉晨, 伴信太郎. 慢性疲労症候群患者の漢方治療: 特に「証」に基づくことの重要性について. Nikkei Medical: 16-17, 2003.
- 51) マイク D. フェターズ, 吉岡哲也, 佐野潔. 家庭医療外来実習を最大限に活かすコツ: STFM プリセプター教育プロジェクトに基づく方略. 家庭医療 10(1): 9-16, 2003.
- 52) 阿部恵子, 伴信太郎. 行動医学 (1): 心理社会的側面の解説: 医師-患者関係の構築, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 91(2): 343-349, 2003.
- 53) 阿部恵子, 伴信太郎. 行動医学 (2): 心理社会的側面の解説: 患者心理と家族ライフサイクル, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 91(4): 717-723, 2003.
- 54) 阿部恵子, 伴信太郎. 行動医学 (3): 心理社会的側面の解説: 患者心理と家族ライフサイク

- ル, 基本的臨床能力への招待. 診断と治療 91(5): 911-917, 2003.
- 55) 阿部恵子, 佐藤寿一. Narrative-Based Medicine の実践例, 医師の立場から, 医療における“物語”. JIM 13: 853-855, 2003.
- 56) 西城卓也. 患者さんと病棟で: “黒戸口”の人生, 研修生活で出会うことば, 研修医の Life と Communication. レジデントノート 5(8): 31-34, 2003.
- 57) 伴信太郎. “総合する専門医”を育てよう. JIM 14: 181, 2004.
- 58) 伴信太郎. 基本的臨床能力としての“教育する力”. JIM 14: 641, 2004.
- 59) 伴信太郎. プライマリ・ケアの専門医: 執筆者としての観点から. JIM 14: 907, 2004.
- 60) 伴信太郎. プライマリ・ケアに求められる総合的判断: 特に心理的側面への配慮について. 臨床針灸 18: 1-15, 2004.
- 61) 伴信太郎. 新しい診療概念: 客観的臨床能力試験-OSCE-. 日本医師会雑誌 132: 868-870, 2004.
- 62) 鈴木富雄. 特集はじめての当直: 病棟編 12 発熱を見たら. 臨床研修プラクティス 1 (2): 99-102, 2004.
- 63) 若林英樹, 阿部恵子, 佐藤寿一. 糖尿病と Narrative Based Medicine, やる気を引き出す糖尿病診療 10 のコツ. 糖尿病診療マスター 2: 654-658, 2004.
- 64) マイク D. フェターズ, 吉岡哲也, 佐野潔, ケント シーツ. プライマリ・ケア医の外来教育への参加. 医学教育 35: 83-83, 2004.
- 65) 西城卓也. ビョーインのなかは奇異難解!?: 研修医生活の初期を無事に乗り切ろう, なるほどわかった!日常診療の基本講座. レジデントノート 6(1): 5-9, 2004.
- 66) 西城卓也. 日本医学教育学会臨床能力研究委員会主催第 1 回若手指導医のための“指導スキルアップ”セミナー参加報告. 医学教育 35(6): 385, 2004.
- 67) 錦織宏, 山口智子. 「足が痛い」, What's your diagnosis?. JIM 14: 737-738, 2004.
- 68) 錦織宏, 吉田一郎. 第 2 回アジア太平洋医学教育会議に出席して. 医学教育 36(1): 44, 2004.
- 69) 伴信太郎. 疲労・倦怠感を主訴とする患者に対する診断の手引き. 総合臨床 55: 76-80, 2005.
- 70) 伴信太郎. 医療を極める: “総合する専門医”(ジェネラリスト)を育てる. Anismus Winter 2006 No. 41: 38-41, 2005.
- 71) 伴信太郎. 内科学、統合性と専門分化をどう両立させるか?: 1. 総合的な内科教育のあり方. 日本内科学会雑誌 34: 1879-1884, 2005.
- 72) 伴信太郎. 良質な医療提供とかかりつけ医の役割. 日本臨床内科医会会誌 20: 169-175,

2005.

- 73) 伴信太郎. プライマリ・ケアにおけるアルコール問題. アルコール関連問題学会雑誌 7: 57-61, 2005.
- 74) 伴信太郎. ジェネラリストの臨床能力: 失神をめぐって. JIM 15: 267, 2005.
- 75) 伴信太郎. 身体診察法再訪. JIM 15: 627, 2005.
- 76) 伴信太郎. 家庭医療学専門医に必要な教育とは. JIM 15: 945, 2005.
- 77) 伴信太郎. 地域・家庭医療領域の診療・教育・研究. 総合診療医学 10 (1): 15-21, 2005.
- 78) 佐藤寿一. 食行動, 食生活因子, 危険因子・環境因子, 成因・機序, 耐糖能障害: 基礎・臨床研究の最新情報. 日本臨床 63: 215-219, 2005.
- 79) 佐藤寿一, 葛谷英嗣. 我が国における糖尿病予防前向き研究 (JDPP) の意義, トピックス, 糖尿病. Annual Review 内分泌、代謝 2005: 44-49, 2005.
- 80) 葛谷英嗣, 坂根直樹, 津下一代, 佐藤寿一, 辻井悟, 佐藤茂秋, JDPP 研究グループ. 保健サービスを利用した生活習慣介入による 2 型糖尿病の予防: Japan Diabetes Prevention Program (JDPP), 日本において現在進行中の大規模臨床試験, 特集: 糖尿病予防のエビデンスと治療の実践. Progress in Medicine 25: 47-51, 2005.
- 81) 西城卓也. 隣の総合診療部①名古屋大学医学部附属病院総合診療部. JIM 15(1): 82-83, 2005.
- 82) 西城卓也, 小田康友, 寺嶋吉保, 石井誠一. 第 3 回アジア医学教育学会 2005 (AMEA2005) に参加して. 医学教育 37(1): 18, 2005.
- 83) 西城卓也, 大西弘高. 欧州医学教育学会 (AMEE) 2006 in Genova, Italy 報告. 医学教育 37(6): 409, 2005.
- 84) 錦織宏, 西城卓也, 伊熊睦博, 堀有行, 三ツ浪健一, 田邊政裕, 吉田一郎, 津田司. ヨーロッパ医学教育学会 (AMEE) 2005 年次大会報告. 医学教育 37(6): 408, 2005.
- 85) 錦織宏, 菊川誠. 2005 年世界一般医家庭医学会アジア太平洋学術会議でワークショップ “How to Develop Educational Abilities” を開催して. 医学教育 36: 240, 2005.
- 86) 錦織宏, 吉田一郎. ダンディー大学のオープンデー. 医学教育 36: 347, 2005.
- 87) 錦織宏, 小島啓尚, 鈴木富雄, 伴信太郎. 「はれのちはれ」, What's your diagnosis?. JIM: 275-277, 2005.
- 88) 菊川誠, 小島啓尚, 傍島由香, 飯島亜由子, 錦織宏, 鈴木富雄, 伴信太郎. 「こんな結果で？」 What's your diagnosis?. JIM 15(9): 715-718, 2005.
- 89) 伴信太郎. 疲労・倦怠感を主訴とする患者に対する診断の手引き. 総合臨床 55(1): 76-80, 2006.

- 90) 伴信太郎. 地域の医師不足解消法をめぐって. JIM 16(10): 777, 2006.
- 91) 伴信太郎. 学外臨床実習の現状と課題. 日医雑誌 135(3): 567-569, 2006.
- 92) 鈴木富雄. 意外とやさしい抗菌スペクトラム. 臨床研修プラクティス 3(2): 48-54, 2006.
- 93) 鈴木富雄. 不定愁訴をアセスメントする. Nursing Today 21(13): 20-23, 2006.
- 94) 鈴木富雄. 神経学的診察の仕方: 誰もが苦手な眼底と深部腱反射のとりかた. レジデントノート 8(5): 641-649, 2006.
- 95) 西城卓也, 田川まさみ, 大西弘高. 第12回オタワカンファレンス. 医学教育 38(4): 271-273, 2006.
- 96) 吉岡哲也. 痛風は食事療法でよくなるの?. JIM 16(11): 927-929, 2006.
- 97) 阿部恵子, 向原圭, 松本拓也, 伴信太郎. 診療の達人になる 第19回. 臨床研修プラクティス 3: -, 2006.
- 98) 若林英樹, 吉岡哲也, 清田礼乃. 米国家庭医療学における行動科学. JIM 16(1): 68-70, 2006.
- 99) 錦織宏, 吉田一郎. 学習環境評価表(翻訳): ダンディー大学 Sue Roff 女史による英国発の学習者の環境評価. 医学教育 37: 97-103, 2006.
- 100) 錦織宏, 西城卓也, 伊熊睦博, 堀有行, 三ツ浪健一, 田邊政裕, 吉田一郎, 津田司. ヨーロッパ医学教育学会 2005 年次大会報告. 医学教育 37(6): 408, 2006.
- 101) 伴信太郎, 西城卓也, 胡曉晨, 桑島愛. 慢性疲労症候群の臨床的特徴: 自覚症状. 日本臨床 65(6): 1011-1015, 2007.
- 102) 伴信太郎. (イラスト・コラム)医師国家試験への技能評価の導入. 医学教育 38(3): 170-171, 2007.
- 103) 伴信太郎. 慢性疲労症候群の薬物療法. 日本医師会雑誌 136(8): 1510, 2007.
- 104) 伴信太郎. 医師国家試験の最近の動向. 日本内科学会雑誌 96(12): 2673-2680, 2007.
- 105) 伴信太郎. 高齢者医療をめぐる問題点: 特に療養病床の再編と在宅医療の推進の周辺. 社会保険旬報 No.2322: 20-28, 2007.
- 106) 伴信太郎. 研修医時代にしっかり学びたい医療行為に関する法律. JIM 17(5): 371, 2007.
- 107) 伴信太郎. (イラスト・コラム)医師国家試験への技能評価の導入. 医学教育 38(3): 170-171, 2007.
- 108) 伴信太郎. 医原性疾患を予防する. JIM 17(11): 905, 2007.
- 109) 佐藤寿一. 糖尿病のガイドライン, 特集: 各種診療ガイドラインをプライマリ・ケアにどのように利用するか. 現代医学 54(3): 405-413, 2007.

- 110) **鈴木富雄**. 特集よくある症状 35 の鑑別診断チャート: 30 歩行障害. 臨床研修プラクティス 4(2): 68-69, 2007.
- 111) **鈴木富雄**. 特集よくある症状 35 の鑑別診断チャート: 31 四肢のしびれ. 臨床研修プラクティス 4 (2): 70-71, 2007.
- 112) **増田浩三, 谷澤朋美, 加藤誓子, 松本拓也, 高橋春光, 田村京子, 鈴木富雄, 伴信太郎**. 「僕だけじゃ充分じゃなかったのね」 What's your diagnosis? . JIM 17(2): 97-100, 2007.
- 113) **青松棟吉, 増田浩三, 名倉明日香, 魚津桜子, 鈴木富雄, 伴信太郎**. 「医者も患者も意識朦朧!？」 What's your diagnosis? . JIM 17(10): 821-823, 2007.
- 114) **西城卓也, 竹島太郎, 松島大**. 「プライマリ・ケア医のための臨床研究デザイン塾」で学んだこと. JIM 17(2): 136-139, 2007.
- 115) **大西弘高, 錦織宏, 雨森正洋**. 自らのエラーを患者に告白し謝罪すべきか, プロフェッショナルリズムについて考えるフォーラム: 白衣のポケットの中 2. JIM 17(3): 244-248, 2007.
- 116) **野村英樹, 錦織宏, 宮田靖志**. 製薬会社提供の弁当、ボールペン、診療ガイドラインを受け入れるか?, プロフェッショナルリズムについて考えるフォーラム: 白衣のポケットの中 7. JIM 17(8): 714-719, 2007.
- 117) **伴信太郎**. QOL を考えた高齢者医療のあり方. 日本の眼科 79(1): 60-61, 2008.
- 118) **伴信太郎, 西城卓也, 胡曉晨, 佐藤寿一, 桑島愛**. 慢性疲労患者に対する内科的治療. 治療 90(3): 489-494, 2008.
- 119) **伴信太郎**. わが国の医学教育の問題点と将来像. THE LUNG perspectives 16 (2) ; 159-167, 2008.
- 120) **伴信太郎**. 高齢者の心身の特性について: 望まれる対応も含めて. 自治フォーラム 584(5): 10-16, 2008.
- 121) **伴信太郎**. 総合診療部と救急部. JIM 18(5): 359, 2008.
- 122) **倉恒弘彦, 久保千春, 伴信太郎, 渡辺恭良**. 慢性疲労症候群診断基準の改定に向けて: 神経・内分泌・代謝からみた検討と疲労の客観的評価法. 日本疲労学会誌 3: 4-7, 2008.
- 123) **橋本信也, 倉恒弘彦, 伴信太郎, 志水彰, 松本美富士, 久保千春, 中山和彦**. 慢性疲労症候群診断基準の改定に向けて: 臨床症候からみた検討. 日本疲労学会誌 3: 8-20, 2008.
- 124) **伴信太郎**. (イラスト・コラム) 地域立脚型の医学教育. 医学教育 39(6): 408-409, 2008.
- 125) **伴信太郎**. 科学的手相学は可能か. JIM 18(6): 445, 2008.
- 126) **佐藤寿一**. プライマリ・ケアにおける頭痛を主訴とする患者さんの診療. 臨床鍼灸 21(3): 1-12, 2008.

- 127) **鈴木富雄**. 感染症じゃないかも？どうする？不明熱・遷延する発熱に対するアプローチ. 臨床研修プラクティス 5(10): 68-74, 2008.
- 128) **西城卓也**. 医師と製薬会社との関係に関する医学教育. 医学教育 40(3): 190, 2008.
- 129) **阿部恵子, 鈴木富雄, 藤崎和彦, 伴信太郎**. 模擬患者の協力を得た身体診察実習の今後の方向性. 日本保健医療行動科学会年報 23: 59-73, 2008.
- 130) **胡曉晨, 佐藤寿一, 伴信太郎**. (私の一処方)慢性疲労症候群患者に対する“弁証論治”の有用性. phil 漢方 24: 14-15, 2008.
- 131) **大西弘高, 錦織宏, 藤沼康樹, 本村和久**. Significant Event Analysis: 医師のプロフェッショナルリズム教育の一手法. 家庭医療 14(1): 4-11, 2008.
- 132) **佐藤寿一**. 危険な頭痛を見逃さないために: プライマリ・ケアにおける頭痛の鑑別と治療, 症例特集 頭痛. 医道の日本 789: 22-28, 2009.
- 133) **佐藤寿一**. 運動療法の行動科学: 行動科学を応用した運動習慣へのアプローチ, 特集 糖尿病患者の行動科学. 糖尿病 52(7): 515-517, 2009.
- 134) **佐藤寿一, 胡曉晨**. 総合診療部外来患者における七情と臓腑病機, 肝胆の臓腑弁証. 漢方の臨床 56(8): 122-128, 2009.
- 135) **佐藤寿一**. どういうときに脳卒中を疑うか?: 脳卒中と誤りやすい意識障害 どう鑑別するか, 脳卒中診療のミニマムエッセンス 脳卒中治療ガイドライン 2009 準拠. 臨床研修プラクティス 7(1): 8-16, 2009.
- 136) **鈴木富雄**. どんな人でも必ず見える眼底鏡の使い方. レジデント 2(3): 2-13, 2009.
- 137) **鈴木富雄**. 病院総合医をこうして育てている: 名古屋大学医学部附属病院総合診療部. 総合診療医学 13(2): 134-136, 2009.
- 138) **鈴木富雄**. 診療の現場での教育能力. 総合診療医学 13(2): 185-190, 2009.
- 139) **西城卓也**. マーストリヒト大学医療者教育学修士課程の概要, 次世代の医学教育者の育成に向けて. 医学教育 40(4): 251-254, 2009.
- 140) **鈴木康之, 吉岡俊正, 吉田素文, 田川まさみ, 錦織宏, 西城卓也, 守屋利佳, 大谷尚, 渡邊洋子**. 次世代の医学教育者の育成に向けて (序章). 医学教育 40(4): 235-246, 2009.
- 141) **釋文雄, 佐藤寿一, 伴信太郎**. 「身心一如」の医療を行う医師を育てる: 名古屋大学総合診療科における心のケア教育. 心療内科 13(6): 445-449, 2009.
- 142) **伴信太郎**. (Editorial) 腹痛診療の達人になる. JIM 20: 153, 2010.
- 143) **高村昭輝, 伴信太郎**. 地域立脚型の卒前医学教育: 医学教育の新しいパラダイム. 医学教育 41: 255-258, 2010.

- 144) 伴信太郎. 家庭医と小児科医との協働. 日本小児科医会会報 40 号: 25-29, 2010.
- 145) 伴信太郎. 家庭医と小児科医との協働. 外来小児科 13: 147-150, 2010.
- 146) 佐藤寿一. わが国における漢方医学教育の取り組み: コア・カリキュラムの標準化についての勘案. 漢方の臨床 57(11): 1884-1895, 2010.
- 147) 鈴木富雄. さあ困った! 摂食障害患者への輸液・栄養管理をどうする?: なるほどわかった! 日常診療のズバリ基本講座 part2. レジデントノート 11(10): 1411-1422, 2010.
- 148) 鈴木富雄. 目は口ほどにものを言うって言いますが..., 内科医が知っておきたい眼科エマージェンシー. Medicina 47(5): 860-861, 2010.
- 149) 西城卓也, 伴信太郎. 教えることで学ぶ ベッドサイド・ティーチングのコツ, 新カリキュラム<2009>の導入にあたり、医師の生涯教育を再考する. 日本医師会雑誌 139(6): 1251-1255, 2010.
- 150) 伴信太郎. (Editorial) 精神疾患と誤診してはならない器質的疾患. JIM 21: 83, 2011.
- 151) 伴信太郎. II. 全身の症候「疲労・倦怠」, 日常診療でよくみる症状・病態: 診断の指針・治療の指針. 総合臨床 60 (増刊号): 826-830, 2011.
- 152) 佐藤寿一. 飽和脂肪酸を減らすと糖尿病の予防につながりますか?, 飽和脂肪酸と糖尿病予防の関係は?, 最近話題の脂肪酸に強くなる. Q&A でわかる肥満と糖尿病 10(6): 874-876, 2011.
- 153) 西城卓也, 伴信太郎. 内科指導医に役立つ教育理論, 医学と医療の最前線. 日本内科学会雑誌 100(7): 1987-1993, 2011.
- 154) 伴信太郎. (Editorial) 病院総合医の専門性とは. JIM 21: 621, 2011.
- 155) 鈴木富雄. 大学病院における病院総合医, 求められる臨床能力と役割. JIM 21(8): 630-633, 2011.
- 156) 鈴木富雄. 13 カ条の原則で解き明かす 不明熱なるほど! ケースファイル (第1回) 不明熱診療の基本. レジデントノート 13(11): 2115-2122, 2011.
- 157) 西城卓也, 伴信太郎. 教えることで学ぶ: ベッドサイド・ティーチングのコツ. 日医雑誌 139: 1251-1255, 2011.
- 158) 田口智博, 岡田唯男. ヘルスマンテナンス (健康増進と予防). In: 八重樫牧人、岩田健太郎 監修. 総合診療・感染症科マニュアル. 医学書院: 395-403, 2011
- 159) 田口智博: IV. 病態の確認 7. 間欠性跛行. In: 大滝 純司 監修. 考える身体診察—症状・主訴から組み立ててゆく身体診察のストラテジー. 文光堂, 143-151, 2011.
- 160) 松葉泰昌, 佐藤寿一, 伴信太郎. セルフケア支援における医療者の役割. 公衆衛生 76:

105-108, 2012.

- 161) 伴信太郎. (Editorial) 総合的な病態の捉え方. JIM 22: 91, 2012.
- 162) 藤江里衣子, 田中愛, 西城卓也, 伴信太郎. 「慢性疲労症候群のための認知行動療法」プログラム開発. 日本疲労学会誌 7: 36-41, 2012.
- 163) 胡曉晨, 佐藤寿一, 西城卓也, 伴信太郎. 慢性疲労症候群に対する漢方診療: 初診時の証と治療効果との関係. 日本疲労学会誌 7: 49-53, 2012.
- 164) 伴信太郎. (Editorial) 家庭医の基本的臨床能力としての家族アプローチ法. JIM 22: 785, 2012.
- 165) 伴信太郎. (Editorial) 今日の外科: こんなに変わっているとは. JIM 23: 277, 2012.
- 166) 鈴木富雄. 13 カ条の原則で解き明かす 不明熱なるほど! ケースファイル (第 2 回) 疑わなければわからない! 意外な落とし穴. レジデントノート 13(11): 2472-2480, 2012.
- 167) 鈴木富雄. 13 カ条の原則で解き明かす 不明熱なるほど! ケースファイル (第 3 回) 「抗菌薬が著効した」に要注意! 半年前から抗菌薬で解熱する発熱をくり返す繰り返す 50 歳の女性. レジデントノート 13(16): 3027-3039, 2012.
- 168) 鈴木富雄. 13 カ条の原則で解き明かす 不明熱なるほど! ケースファイル (第 4 回) 胸部 CT で影がないのに咳が止まらない? 頑固な咳と発熱に悩まされ発症 7 ヶ月後に診断がついた 69 歳の女性. レジデントノート 14(3): 626-637, 2012.
- 169) 鈴木富雄. 13 カ条の原則で解き明かす 不明熱なるほど! ケースファイル (第 5 回) こんな不明熱も決して稀ではない…? 3 年前からの身体全体の皮疹と 1 年前からの高熱に苦しむ 44 歳女性 (他 2 例). レジデントノート 14(6): 1193-1204, 2012.
- 170) 鈴木富雄. 13 カ条の原則で解き明かす 不明熱なるほど! ケースファイル (第 6 回) 第 4 の不明熱といえば… 8 年前からの周期的な発熱と腹痛に悩まされる 26 歳の男性. レジデントノート 14(9): 1782-1794, 2012.
- 171) 鈴木富雄. 聴覚障害・耳鳴り: キーワードから展開する攻める診断学. レジデントノート増刊 14(1): 124-131, 2012.
- 172) 伴信太郎. 医療者教育の現状と展望. Dental Medicine Research 33: 156-162, 2013.
- 173) 佐藤元紀, 伴信太郎. 大学病院における総合診療医の役割. Pharma Medica 31: 13-16, 2013.
- 174) 伴信太郎. (Editorial) アルコール関連問題の新展開. JIM 23: 919, 2013.
- 175) 伴信太郎. プライマリ・ケアにおけるアルコール問題の現状とあるべき姿. JIM 23: 928-933, 2013.

- 176) 鈴木富雄. 急性循環不全（不整脈/心筋梗塞），循環器疾患，産科編 妊産褥婦の合併疾患，産婦人科当直マニュアル慌てないための虎の巻. 臨床婦人科産科 67(4): 240-244, 2013.
- 177) 鈴木富雄. (6)発熱，危険な〇〇見逃し回避術，プライマリケア・マスターコース: 日常診療ケーススタディ 本命？ 対抗？ 大穴？. 日本医事新報 4678, 47-50, 2013.
- 178) 竹中裕昭. 過活動性膀胱，Ⅱ. プライマリ・ケア医の立場から. 治療 95 (9) : 1618-1620, 2013.